

月刊 岩小舎 12月号

■技術委員会企画

「」 11月6日(土)「」

天覧山／救助訓練勉強会

「」

- ◆メンバー: 金沢和則、坂口理子、伊藤幸雄、横川秀樹、山野昭人、久野眞由美、山野美香
福田洋子、田口浩昭
- ◆記録 : 山野昭人

「シングルロープで登っていったトップが、ロープ一杯に近いところで墜落、動けなくなったらどうするか。」考えたくもない恐ろしい状況を想定して訓練は始まった。夏山サバイバルでは「トップ墜落の衝撃体験」なる項目で、トップの墜落から仮固定後に荷重を支点に移して抜け出るという手順を行うが、今回はテンションから抜け出たあとの処置が中心だ。他の人がやっているのを見ているうちは良いのだが、いざやってみるとテキパキとできない。「さて次はどうするんだっただかな」という思考が入ってしまうのだ。

訓練では墜落役と救助役を交互に繰り返したが、更なる練習が必要と感じた。その他感じたことは、

- (1) 通常の岩登りでは使わない結びで、救助には不可欠な結び方はマリナーノットである。荷重が掛かっても解きやすいのが最大の特徴で、長さも巻き数によって簡単に調節できる。結びの要点は末端を挟む点にある。
- (2) 最低でも2度、墜落者の所まで登っていかなければならない。45m一杯で墜落した場合には、合計90mをプルーシックやタイブロックを頼りに登らなければならない。かなり疲れそうだ。
- (3) 墜落者を下ろした後、救助者はどのように降りてくるのか。トップが落ちるようなところでクライムダウンできるのか。もう1本ロープがあれば、つないで降下することができるのでは。

最後に、天覧山の岩場(一番下の岩場)は傾斜も緩く安定しており、救助訓練には良いと思われる。もう少し支点が多ければ完璧といえる。次回はハーケン打ちの練習も兼ねて、支点を増やしてしまうのもありかな。

【今月の目次】

■技術委員会企画	
天覧山／救助訓練勉強会	1
■講習山行	
天覧山／救助訓練	2
日和田②	3
岳嶺岩／A1クライミング	3
藤坂ロックガーデン	5
■自主山行	
天王岩 RCT	5
日和田 RCT	6
奥多摩日原川／倉沢谷・塩地谷	6
戸隠山縦走	7
伊豆・城山 RCT	8
日和田 RCT	9
■今月の TIPS No.9	4
～やればできる～	
■山の学習帳 No.7	9
～天気図あれこれ その4～	
■特集～2004年 山塾10大ニュース～	10
■同人便り じん帯繁盛記 ～その4～	14
■こちら技術委員会	15
～仮想レスキュー～	
■編集室だより&会員一言集	16
■11月の山行一覧・1月号の予定	17

■講習山行の記録

「」 11月7日(日) 「」

基本ステップ／天覧山 救助訓練

「」

- ◆メンバー：金沢和則(講師)、松本善行、矢田実、坂口理子、沢口千鶴子、渡部吉実、伊藤幸雄、横川秀樹、山野昭人、山野美香、田口浩昭、福田洋子、久野真由美、伊藤栄子、浅村和史、阿出川忍、黒田記代、田中治男、松永己幸、福島彰男
- ◆記録：福島彰男

飯能駅からこれほど近い所にこういう岩場があるとは本当にビックリしました。また、今回は大勢の方の参加に驚きました。講師以下総勢 20 名の方が参加です。今回の講習の目的は岩場や沢での負傷者発生、搬出が必要となった場合を想定して行われました。

最初は負傷者の搬送ということで、搬送方法がいろいろと紹介され、同時に各自実践してみました。●ロープを利用した搬送。ロープを使い、2 人のそれぞれ片方の腕を 1.2m 程間隔を空けてその腕を利用してロープを巻き束ねます。そして、その巻き上げたロープの中心の所を 10 回位巻き締めます。そうするとロープの束の輪が仕切られて2つできます。その輪に負傷者の足を入れ、背負う人もその輪を肩に掛ける方法です。ポイントは輪のバラツキが無いようにロープを巻くようにすることと、輪が相手を背負った時、腿を支えた輪が自分の肩に上手く掛かるかどうかです。マッチすると結構楽に担ぐ事が出来ます。●幅広テープスリングで背負う方法。簡単ですが背負う人の方が辛いです。肩にかなりの負担が掛かり、長時間背負うのは苦しいのではと思いました。何か肩の所にテープが食い込まないようにすると良いのではと思いました。●ザックと雨具を使う方法。まずザックのストラップ下部の細い部分に、雨具の袖口をしぼる。しぼる際は、負傷者の足の腿の下側から、ザックのショルダー紐に結ぶ。次にザックと雨具で怪我人を挟み込むような状態にして、負傷者の左右の脇の下、雨具部分に、カラビナか石などを包み込みながら、スリングでインクノット結びで固定し、そのスリングをザックの首裏にくる部分のストラップと結ぶという方法です。この方法は比較的簡単に結構使えるのではないかと思います。

ました。

又、歩けない場合は担架にして運ぶ方法として、●ロープを編んでハンモックのようにし、その上にシートを敷き担架を作って運ぶ方法。5～6人で運ぶ。負傷者には良さそう。ただ編む人がいないとこの方法は出来ないことになる。又編むのに慣れないと時間が掛かりそう。●デージーチェーンとカラビナ、スリングを使って梯子状にして、その上にシートを敷いて担架を作り運ぶ方法。●ザック 3 個を結び担架を作り運ぶ方法。この方法は結構時間が掛からず、負傷者も楽と思われそうです。自分はこの方式が気に入りました。

次に、懸垂の仮固定練習を何度も、納得いくまで行いました。そのあと壁からの搬送の講習として、●介助懸垂下降、●背負い懸垂下降等が行われました。なかなか咄嗟の場合に出来るかどうか、特に背負い懸垂下降は負傷者が大きい、重い人は大変、それなりに訓練が必要だと思いました。また少人数の場合の方式として、2人とザイル1本の場合を想定し、●カウンターラッペル下降も行われました。更に、負傷者を引き上げる方法として、●3 分の1システムによる負傷者の引き上げも学びました。

いろいろ初めての体験が多く覚えるのが大変ですが、岩場や沢で緊急時の救助法としてとても大切なことなので、今後自分のものになるよう繰り返し練習をしておく必要があると思いました。大変勉強になった一日でした。

【行程】

天覧山(9:10)～講習開始(救助訓練)～終了(16:00)

「」 11月13日(土) 「」

基本ステップ／日和田②

「」

◆メンバー:宮下裕史(講師)、横川秀樹、福島彰男、神森揮要子、松永己幸、遠足 5名

◆記録 :神森揮要子

■9:30~11:50 子供岩

シットハーネスの着け方、クローブヒッチ、ハーフクローブヒッチ、フィギュアエイトノット、プルーティック結び、ダブルフィッシャーマンなどの結び方の練習。それを使つての実技。

肩がらみによる懸垂下降と確保、登る時の体重移動、足、手の位置の取り方

■12:30~15:45 男岩

パートナーへのビレイの方法、セルフビレイの取り方、エイト環の使い方や確保の方法、懸垂下降、など

時間をフルに使つての練習でとても有意義な1日でした。寒さもそれ程ではなく、ビレイや岩との格闘に汗が吹き出るほどで、苦手なビレイの練習で肩、腕、背中が痛くなりました。

岩は、下から見上げている時と、実際に取り付いた時ではホールドの大きさ、形が全然違うということが判りました。身体全体をうまく使うことや、腕、足の位置などを何度も参加して身に付けたいと思います。宮下さん、横川さんありがとうございました。

「」 11月21日(日) 「」

基本ステップ／岳嶺岩 A1 クライミングを学ぶ会

「」

◆メンバー:小林英男(講師)、向原侑希、松本善行、久野真由美、小林幸恵、松永己幸、福島彰男、池田松野、神森揮要子

◆記録 :松永己幸

“小林講師のアブミはとても美しく登るのでよく学習してくるといいよ”とアドバイスを頂いてのA1チャレンジです。

まずは岩にボルトを打ち込む事から始めました。アブミの種類と基本的な使用方法、レストの仕方を学習し、いざ垂直壁へ! A 峰東面に 2本 C 峰西面に1本。

午後からは小ハングに挑戦です。講師と CU の模範アブミの後、研究生に続きレッツトライです。24 期パワー系という応援を背に受け、無我夢中で支点までたどり着きましたが、もっと美しく登ってほしいという講師の一言で、次のアブミの課題は脱パワーと美しい登攀になりました。

【行程】

岳嶺岩(10:30)~A1 クライミングトレーニング~終了(16:30)

お知らせ

原稿の宛先

月刊岩小舎の原稿は、下記までお願いします。

講習山行⇒山野美香

自主山行⇒福田洋子

同人便り⇒坂口理子

今月の一言⇒横川秀樹

メールアドレスがわからない場合は、sanjc2004@yahoo.co.jp までお問い合わせ下さい。

今月の TIPS (No.9) ～やればできる～

やればできる……って、今回はかなり精神的なタイトルですが……、
そう、やればできるのです。

まず、私の経験からお話します。

去年の秋、日本を代表するクラックの名ルート『小川山レイバック』に挑戦したときのこと。一回目はトップロープ。岩が濡れていたこともあって、私には難しく、かといって講師は下ろしてくれず、何度もテンションを掛けたあげく40分ぐらいかけて泣きべそをかきながら登りました。

しかし、他パーティーの登りを見てからの2回目。最初のトライで精神的にも肉体的にもかなりのダメージを受けていましたが、ビックリするほどあっけなく登れました。そして、3回目は、カムをセットする練習をしながら余裕を持って、さらに4回目はリードの練習もしてみました。

何を言いたいのかと言うと、2点あります。

まず1つめ。最初のトライで苦勞したり、落ちたりすると普通は精神的にまいってしまうものです。ましてや他の人が登れて自分が登れないという状況になると、とてもめげてしまいます。再び落ちるのが恥ずかしい、再び登れないのが恥ずかしい、そんな気持ちになりがちです。

でも、やればやるほど、そして、回数を重ねれば重ねるほど、たとえ登れなかったとしても、どこかしら必ず上達しています。最近の経験では、11月末、伊豆のとある講習会に参加した私は、やはり数え切れないぐらい落ちまくって相当ボロボロになりました。しかし、インストラクターから、「もう一回やりますか？」と聞かれたら、必ず「はい」と答え、再び気合を入れなおして、良いイメージを描きつつザイルを結んで岩へと向って行きました。別に、自虐的でも、格好を付けているわけでもなく、『やればやるほど必ず進歩する』ということを知っているから(信じているから)、時間が許す限り、順番待ちをしている他の人に迷惑を掛けない限り、登ることにしています。

そして、2つ目。ルートは一回登って終わりではありません。2回目は、さらに無駄なく、さらに正しい動きで登る意識をしてみましょう。そして3回目はさらに上を目指して。数多くのルートに登るほうがもちろん楽しいですが、ひとつのルートを集中して登ることで上達は間違いなく実感できると思います。

クライミングの練習には、いろんなやり方があります。それぞれの皆さんが自分にあったやり方でやって構わないと思います。でも、このことは頭の片隅に置いておいて損はありません。

やればできる。

やればやるほど上手くなる。

(研究生・横川)

お知らせ

無名山塾・本科(登山学校)のご案内

無名山塾・本科は自立した登山者の育成を目的とし、2年間で岩・沢・雪の基礎的な技術(48単位)を取得して頂きます。入会申し込み、お問い合わせは、無名山塾事務局まで電話、FAX、ハガキ、Eメールで。

〒170-0005 東京都豊島区南大塚 1-39-2-1F

TEL:03-3941-3481(平日 10時-18時) FAX:03-3941-3482

メール:sanjc@coffee.ocn.ne.jp

入会金:10,000円、年会費:12,000円

山岳保険料:8,000円(4/1~3/31)

「」 11月23日(火) 「」

応用ステップ／藤坂ロックガーデン

「」

◆メンバー: 金沢和則(講師)、伊藤幸雄、横川秀樹、山野昭人、山野美香、田中治男、黒田記代、小林幸恵、阿出川忍、斉藤典子、福島彰男、池田松野、神森揮要子、松永己幸、遠足1名

◆記録 : 田中治男

9時半頃岩場に到着し、トレーニング開始。小春日和の中、汗ばむようだった。9月のつら岩が雨の為に中止だったので、日和田からのステップアップとして、マルチピッチ・ダブルロープについて学んだ。

習熟度に従い、23期主体のグループは南壁・南稜、24期主体のグループは南西壁を登った。私は24期に混ざって基本から学んだ。

まずシングルロープでクイックドロのクリップの仕方、ロープワークの確認、ビレイポイントでのセルフビレイ、セカンドのビレイについて学んだ。「教わった事あったよな。」と思う事もあったが、なにひとつはっきりと覚えていない自分にあきれる。それにひきかえ他の23期の人達が颯爽と数十メートルの懸垂下降で降りてくるのには感心した。

午後には南稜に移動してダブルロープでの

流れについて学んだ。ATC、ルベルソを使ったビレイを行った。支点が少ない、岩が脆いといった中トップをやったが、同じところを登るにしてもセカンドとは大違い、必死の思いだった。

しかし昼飯を食べたら午前に行った事をもう少し忘れてる。本を見ても学べない、いつものことながら実践の繰り返しが重要である事を再認識した。あと山野(昭)さん曰く「大変なところに行けば忘れないよ。」とのことであった。時間の関係でこの後、懸垂下降にて終了した。

次回は間を空けずに岩登りに行きたいと思う。

【行程】

佐野駅(8:40)～藤坂ロックガーデン(9:00)～南壁・南西壁にてトレーニング～終了(16:30)

■自主山行の記録

「」 11月3日(水) 「」

天王岩 RCT

「」

◆メンバー: 横川秀樹(L)、山野美香(SL)、山野昭人、田口浩昭、工藤寿人

◆記録 : 横川秀樹

涅槃岩、焼き場の岩場とも言われる天王岩は、武蔵五日市駅から車で15分程度のところにある。その呼ばれ方からも分かる通り、岩の裏手には火葬場がある(らしい)。

上の岩場はやや薄かぶりの中上級者向けルートが多く、下の岩場は5.8や5.9の初級者向けルートが多い。

都心から近いこともあり、休日には大勢のクライマーが集まり、講習会も頻繁に開催されてい

る。

この日は、朝7時半前に秋川国際マス釣り場に到着。駐車場の開いたのは7時40分頃だった。(駐車場の営業時間は8:00～16:00。500円)

集合の8時半までは時間があるので、徒歩1分のところにある岩場を偵察。ナント濡れていた。どうやら、この近辺は明け方まで雨だったようだ。上の岩場も下の岩場も、どちらも乾くまで時間

がかかりそうである。

駐車場に戻ると、全員集まってきた。少し時間をつぶすしかないので、みんなでおしゃべりしていると、駐車場の係り員から「釣りをしないなら停めないでくれ」というようなことを言われ、内心ムツとするが、大人の対応をする。

しょうがなく、移動。下の岩場でとりあえず登ることにする。もちろん、岩はビショ濡れのままだ。こういう練習もいつかは役立つだろう。5.8 とは言え、滑るのでリードは緊張する。

他のクライマーはというと、ほとんど上の岩場

でやるようだ。下には他パーティーは、ほとんど来ない。確かに、上のほうが乾きが早そうでもあった。

結局、この日は、5.8～5.9 を数本登って終わりとした。薄かぶりのフェースクライミングを楽しもうと思っていたのが、次回への持ち越しとなり残念。

【行程】

秋川国際マス釣り場駐車場(8:30)～停滞～練習開始(10:00)～終了(15:30)

「」 11月10日(水) 「」

日和田 RCT

「」

◆メンバー: 福島彰男(L)、松永己幸、池田松野、伊藤由以

◆記録 : 池田松野

日和田の男岩南面でトレーニング開始。クラックには他パーティのザイルが張ってある。

私達は支点作りを第一の目標としていたので慎重に支点をセットし、懸垂下降する。次いでクラックを登り、上でセカンドビレーをする。

セカンドビレーの仕方、ザイルを手際よく扱うこと等、自分たちでやってみるとあやふやな事が多々あり、今後の課題が沢山出てきて有意

義な山行だった。

伊藤さんには24期でセットしたものについて、違っている点を指摘、アドバイスしてもらい、自主1回目だったが安心してトレーニングすることができた。

【行程】

トレーニング開始／男岩(9:30)～終了(16:00)

「」 11月13日(土) 「」

奥多摩日原川／倉沢谷・塩地谷

「」

◆メンバー: 福田洋子(L)、渡部吉実(SL)、南谷やすえ

◆記録 : 福田洋子

「やっぱり11月は(わらじ納め)をしないとね。大丈夫、濡れないルート探すから」なんて言って2人を誘い込んでしまった。あれやこれやで丹沢や奥多摩のルートをめくりこれしかないでしょう、で探し当てたのが塩地谷。

前から行ってみたいリストには入っていましたが夏の初めに考えていた時は、倉沢谷本谷から継続して上流の長尾谷と塩地谷を泊まりでやる計画。タイミングをはずした為、今年はまだ無理だなと思っていました。でも、この辺り長沢背

稜の縦走路は行ってみたい。継続するのは来年として、偵察だけでも出来ないかと考えました。

単純にルート図を比較すると遡行時間の短い長尾谷ですが下山が長いしアプローチに車が使いづらい。塩地谷は前半ゴルジュで水量も多いらしい、遡行時間も3時間半と長いのでダメかなと地図に遡行図とを何種類かを広げて思い付きました。

そう、季節も秋だし濡れたくないんだからゴルジュを仕事道でカットしてしまえ。下山には棒杭

尾根がきつと黄金色のトンネルを用意しているはず。そんな期待を胸に計画しました。

倉沢の林道は、まあしっかりしているものの路肩の脆そうな所もあり終点まで行かずに車を止めました。30分ほど歩いて魚留橋に到着、橋のところから魚留ノ滝が望めます。そんな滝を巻く為かのように仕事道が尾根に向って付いています。斜度がありそのまま沢に降りずに上ってしまいそうな雰囲気ですが、しばらく行くとトラバース気味に尾根を巻くようになり右下にゴルジュ帯とおぼしき沢の流れが望めます。岩尾根を越えて、はっきりした流れの茅尻沢を渡り塩地沢に入ると、そこは空が広く気持ちの良い所で小屋跡のある場所は絶好のテン場となりそうです。核心を省いた為、沢登りというよりは沢歩きに終始することになりましたが、ピチャピチャいわせながら魚影をながめ、赤や黄色の落ち葉が水

面にゆれてのんびり歩くのも良いもんです。メンバーもそんな沢に相應しい面々だったと思います。

遡行 2 時間で登山道に出ましたが途中で大きな拾物もしました。頭蓋付き鹿の角です。バラけた奴や肉付きのは今までもお会いしましたがコレは見事にV字状に角が残っていて「生徒に見せてあげる」とMちゃんはリュックに括り付けて持って帰りました。この後姿は中々のもんでした。

一応偵察の一貫として一杯水避難小屋も覗かせていただきましたが既に 10 人位の方がマットで陣取りをしていました、ストーブもトイレも有り独占できたら楽しいでしょう。

もう一つの目的の棒杭尾根ですが残念ながら黄金色のトンネルは早散り終わっていました。10 日位前でしたらきつと素敵なお光景だったと思います。それでも木々を透かして東日原に向う尾根の稜線や倉沢谷の奥深さは堪能できましたし、おまけに地蔵橋まで一時間で下山できるのを確認できて今後の沢や長沢背稜の冬季縦走あるいはカモシカとか、やってみたい計画のおおいに役に立つなと思いました。

【行程】

魚留橋(10:30)～小屋跡(11:30/11:45)～登山道(14:25)～一杯水避難小屋(14:30/14:50)～棒杭尾根分岐(15:30/15:40)～地蔵橋(16:30)

お知らせ

メーリングリストのご紹介

無名山塾の本科、研究生、同人、講師の連絡用に sanjc2004 メーリングリストが運営されています。現在、本科生 12 人、研究生 12 人、同人 4 人、講師 2 人が登録しています。登録がまだお済みでない方は是非登録の申し込みを下記アドレスまでお願いします。

sanjc2004@yahoo.co.jp

「」 11 月 13 日(土)～11 月 14 日(日) 「」

戸隠山縦走

- ◆メンバー:阿出川忍(L)、黒田記代、斉藤典子、伊藤栄子
- ◆記録 :阿出川忍

女性 4 名、時間切れの為、八方睨でビパークしました。八方睨は戸隠連峰の 1 つのピークで高度 1900m です。

5 時 15 分まだ明るかったのですが、これから先の「剣の刃渡り」「蟻の戸渡り」などの通過を考え、ビパークと決めました。

まず、ツェルトの用意を 3 人がしてくれているうちに、私はお湯を沸かし、食事の用意をしまし

た。だんだん暗くなるのと共に、気温がどんどん下がっていきました。ツェルト 2 張を風が除けられそうな所に張ろうと、いろいろやってみました。が、うまくいかず、上半身と下半身に別けて 4 人並んで被りました。しばらくして、これは寒い事が解り、2人ずつ、くるまって寝る事にしました。私は靴を脱いで、ザックに足を入れていましたが、背中からの冷えがとても辛く、ザックを敷い

て靴を履きました。みんなそれぞれ少しでも寝易いように、ごそごそ動き、傘をさしたり、色々工夫していました。眠れないので、伊藤夫妻の馴れ初めなんか、聞いちゃったりして・・・そのうち1人、2人と寝息が聞こえてきて、寒くて、長い夜が始まりました。

妙な興奮状態(?)と寒さの為、眠れなかった私は、1時間置きに9回、ツェルトを抜け出して、みんなの寝息を確かめました。笑われるかもしれませんが、凍死が怖かったです。

明け方、寒さは一段と厳しくなり、3時50分～5時頃みぞれが降ってきました。



どんよりとした空は6時を過ぎても明るくならず、なかなかツェルトから出てこないみんなに「行くよ～」と掛け声かけて、6時50分に出発し、車のある奥社まで無事下山しました。

今回、何故ビバークになってしまったかを考えると、このコースは行程が長いので、もう少し早い時期に計画したほうが良かったということと、心配していた岩場の通過よりも、雪のうっすら積もった登山道歩き(特に下り)に時間がかかったという事が挙げられると思います。

今回の自主は、いろいろな事を学べたとても良い山行でした。

「無理はしないけど、ちょっと頑張る自主」これからもどんどん計画したいと思いました。

【行程】

11月13日(土)

上楠川橋(5:40)～P1 尾根取り付き(6:20)～第1峰弁慶岳(12:25)～西岳(13:35)～本院岳(14:20)～最低鞍部(16:05)～八方睨(17:15)

11月14日(日)

八方睨(6:50)～戸隠神社(10:30)

「」 11月20日(土)「」

伊豆・城山 RCT

「」

◆メンバー:横川秀樹(L)、伊藤幸雄(SL)、久野眞由美、伊藤栄子、工藤寿人

◆記録 :横川秀樹

城山(じょうやま)は、伊豆大仁にある山で南面は高さ100mほどの岩壁となっている。山塾では、去年、新保さんの講習が行われたこともあるが、ほとんど行くことのない岩場だ。

今回は、この城山南壁のショートルートでスラブを楽しもうという企画を立てたが、工藤さんの遅刻でいきなり出鼻をくじかれてしまう。といっても15分ほどの遅れですみ、一安心。

登山口から15分ほどの岩場には既に3、4パーティが到着していた。天気は朝から快晴だが、明け方までの雨のせいで、まだ岩は湿り気味だ。

リードしないとトップロープは張れないので、一番易いそうで、岩も乾いてそうな左端のアナ

ザガールに行くことにする。下のほうはまだ滑りやすく、かなりビビリながら何とか上まで行く。

岩場は相当混んできて、全員登ったら空いている別のルートにトップロープをセットするという繰り返しで、結局、5.8～5.9の6ルートほどを楽しんだ。

私以外は、城山が初めての人ばかりだったので、小川山とも広沢寺とも一味違ったスラブ登りを体験してもらえて、良かったのではないかなと思う。

【行程】

城山登山道入口(9:15)～岩場(9:40)～終了(16:00)

「」 11月27日(土) 「」

日和田 RCT

「」

◆メンバー: 福島彰男(L)、池田松野、松永己幸

◆記録 : 松永己幸

11月23日藤坂ロックガーデンで学んだマルチピッチの復習。

【不十分な点】

- ① 互いの装備の確認を忘れる
- ② “ビレイ解除”と声を掛ける事
- ③ 流動分散のセットのしかた
- ④ セルフビレイの取り方
- ⑤ セカンドが登攀する前にビレイ器セットすること
- ⑥ 懸垂後引きザイルにカラビナを掛ける
- ⑦ 懸垂終了後ザイルを前後させること

一人の間違えや疑問点を全員で共有できたことが良かった。また、意見の交換で互いの意思の疎通が図れた。

PM は伊藤夫婦が見学にいらして、とても適切なアドバイスを戴き、マルチピッチの手さばきが上達した。

今後はどのような岩場でも対応できるように、向上したい。

【行程】

AM: 子供岩 ~ PM: 男岩横

◆◆◆ 山の学習帳 No.7 ◆◆◆

【天気図あれこれ その4】

放送終了後、高気圧や低気圧の位置、進行方向、速度、前線、そして等圧線を書き込みます。天気図の作成は放送終了とともに終るのではなく、実はこれからが時間の掛かる作業であり、特に等圧線を書き込む作業が最も難しい工程と言えます。さて、ここでも筆者流の加減天気図作成方法を紹介します。

高気圧や低気圧の位置や進行方向は今後の天気の回復速度や悪化速度を予測するのに役立ちます。大体 30km/h から 40km/h の速度で東から北東の間の方向に進みますので、多少間違っても、今ある位置からの変化は見当をつける事ができます。大阪ー東京間は 500km 程度ですので、35km/h で低気圧が一般的な方向に進むとすると、単純に考えて 14 時間程度で大阪の天気が東京にやってくることとなります。これだけ覚えていてもかなり使えます。

等圧線を描き込む際には、まず放送された「日本付近の主な等圧線」を先に描きます。最初にしっかりした等圧線があると、他の等圧線

が描き易くなります。等高線を書き入れるコツは、
(1) 神経質にならないこと。
(2) 「日本付近の主な等圧線」を頼りにすること。
(3) 等圧線が交わることは無い。
(4) 同じ気圧の等圧線が長い間平行に走ることはない。

等圧線を描くと判るのは風の強さです。日本の本州に 5 本(=20Hp)もの等圧線が入っていたら、風は強いでしょうし、1 本しかなかったら、殆ど風は吹かないはず。これは地形図で傾斜をみる要領と一緒です。日本付近の等圧線が混んでいるのかいないのかを知る程度でしたら、神経質になる必要もありませんので、思い切って引く事ができます。

天気図の話はこれで最終回です。筆者ならの工夫を延々と述べましたが、天気図を描こうとした事のない方には面白くなかったかもしれません。将来天気図を描いてみようと考えたら思い出して下さい。(研究生・山野)

発表！ 2004 年 山塾 10 大ニュース

12 月号恒例となった『山塾 10 大ニュース』いよいよ発表です。昨年は、夏の劔岳合宿が 1 位、2 位が大鹿村集中、3 位が工藤・金沢新体制でした。今年はどんな順位になるのか、座談会に集結した 4 人が白熱の議論の末選んだ 2004 年ベスト 10 なのだ！

研究生 Y では早速いきましよう。各自、これはってヤツをいくつか挙げてください。

研究生 I まず、カラーの入会案内書。劔岳合宿。長谷川カップ。それと、怪我が多かったよね。あとは山スキー三昧、って感じかな。

研 Y 伊藤さん、その、山スキー三昧っての一体ナニ？工藤講師がまた調子に乗るよ。

研 I いいじゃないの、楽しいんだから。俺はテレマークもやるぞ〜。

研 Y 次、斉藤さん。

本科生 S 私は、やっぱり劔岳かな。それと、タカマタギ登頂。ついこの間の戸隠のビバークもいれたい。それから、大常木谷とカラーパンフ。

研 Y タカマタギはいいね。

本 S ずっと何年も講習会で登頂できていなかったのが登れてすごうれしかった。それに、人数も多かったし、天気も最高。

本科生 A 戸隠は私も印象深い。時間切れで下山できなくなって、^{はっぼうにらみ}八方睨みでフォーストビバークになったんだけど、寒くて一睡も出来なかったの。女 4 人パーティ、ツェルト 2 枚と着るもの全部着込んでね・・・。

研 Y 阿出川さんと斉藤さんと誰がいたの？

本 A 黒田さんと栄子さん。

研 Y 23 期のエースが勢ぞろいしてのビバークかあ。他には？

本 A 劔岳の合宿では 24 期のパワーに圧倒されたってことと、怪我の続出、タカマタギ、カラーの入会案内書、新保さんがいなくなったこと。それから研究生が大勢になったっていうのがスゴイことじゃないかしら。

研 I 研究生って何人いるんだっけ？

研 Y 今年なったのが山野夫妻、田口ちゃん、久野さん、南谷さん、由以さん、福田さん、日浅さん、それから我々二人かな。おお 10 人だな。

本 A この前の藤坂ロックガーデンの講習でも、研究生がついてくれたおかげでスゴク分かりやすかったし、横川さんも幸恵ちゃんにいろいろ教えてあげたでしょう。彼女、感激してたのよ。これまでの岩登り講習会ではいつも不満を感じてたらしいんだけど。

研 I 一応、おれも、24 期グループにはしっかり教えてました。でも、まあ、これは、工藤・金沢両講師も真摯に耳を傾けて、今後どうするか考えるべきだな。

研 Y あまり言うのと俺たちの首を絞めることにもなるんで難しいところだよな。教えたいのは山々だけど、自分たちの山

へも行きたいし。

研 I そうだな、難しい話は技術委員会で話そうや。じゃ、これで候補は出揃ったのかな。

研 Y えーっ！オレのを聞いてよ、ちゃんと。

研 I じゃ、手短に頼むよ、横ちゃん。

研 Y 伊藤さん、オレが司会なんだけどなあ。まっ、いいか。まず、美香編集長に敬意を表して岩小舎創刊でしょ。加藤泰平さんの登場と、深川 SC でのトレーニング。技術委員会主催の勉強会もだね。

研 I 技術委員会が月 1 回で定例化したのも記録しておきたいことなんじゃない？

研 Y おれもそう思ったんだけど、調べたら、それは去年から始まっていて、2003 年 10 大ニュースの第 10 位に入っていたよ。

研 I そうだっけ。

研 Y だから、今年の 4 月と 11 月に天覧山で開いた勉強会にしたの。一応、オレも本読んで資料を作ったので。さ、では、いよいよ、順位を決めていきますね。ちなみに去年の 1 位は劔岳合宿なんだけど。

研 I じゃあ、今年の 1 位は別のものにしよう。マンネリはやだもんね。

本 S カラーパンフはどう？

本 A あれは画期的だった。

《2004 年 無名山塾 10 大ニュース》

研 I 今までの山塾では考えられないよな。新人はそれほど増えてないけど。

研 Y 確かに、アレを見て入ったという新入会員がいないのが残念。机上講座と山道具屋などで合計 1000 部近く、配布したのになあ……。じゃあ、こうしよう。岩小舎創刊と合わせて1位。これでどう。

研 I 合わせ技で一本ってこと？

研 Y 美香ちゃんの苦労は並大抵ではないよ。同じ印刷物ということで一括りだね。

本 S これ、かなりアバウトな決め方でいくのね！？

本 A なんとなく進み方が分かってきた。

本 S 劔岳合宿は、そうすると2位ですか？

研 Y ちょっと、劔は後回しにしよっ。

研 I 草野さんとか矢田さんとか大きな怪我が多かったけど、これはどうしよう。

本 A 私も、額に浅村君のアイゼンの爪が刺さっちゃったんですけど、マイナスなことだから、あまり目立っちゃまずいかしら。

本 S 4位ぐらい？

研 Y そんなところかな。

研 I これを教訓に我々も気を引き締めようということだな。

本 S あのお……。

研 I な～に？

本 S 戸隠、どこかに入れてもらいたいんですけど……。

本 A 標高 1900m でのビバークで、貴重な経験だったの。無理はしないけど、頑張る、って感じで。

研 I じゃあ、9位でどう。

- ① カラー入会案内書&「月刊 岩小舎」発行
- ② 幻の雪山タカマタギ、ついに登頂！
- ③ 夏の劔岳合宿。長次郎雪溪、八峰下半部、源次郎尾根、チンネ左稜線を登る
- ④ 骨折、じん帯断裂、アイゼン突き刺さるなど、大きな怪我続く
- ⑤ まさにアドベンチャー！ 大常木谷
- ⑥ 研究生 10 人増。技術委企画、本格始動
- ⑦ 長谷川カップに 8 人参加 完走者 5 人
- ⑧ 新保さんが去り、加藤泰平氏登場
深川 SC で月曜貸し切りトレーニングも
- ⑨ 女 4 人の戸隠縦走自主、時間切れでビバーク
- ⑩ 山スキー & アイスの講習や自主が増え、冬山の新たな楽しみ方を知る

研 Y OK。異論ナシ。

本 S それとね、2 月のタカマタギ登頂はベスト3に入ってもいいと思うんだけどな。

研 I 研究生も、スノーシューとか山スキーとかいろいろ使って登ったよなあ。

研 Y じゃあ思い切って 2 位だ。

研 I 長谷川カップはどうしようか？

本 A 山塾から 8 人も出場したから、上位でもいいんじゃないの？

研 Y 山塾のイベントじゃないからなあ。オレも途中棄権してるし……。7位ぐらいかな？

本 A はい……。いいです、それで。

研 I 加藤さんもどこかに入れようよ。何しろ戸田直樹のパートナーだろ。

研 Y 生きる歴史だね。山塾で一肌脱いでくれるとはね。

本 A 小川山では、ホントに脱いじゃって上半身裸でした。

本 S 今あいているのが、8

位とかですけど。

研 Y いいんじゃない。これも新保さんが辞めたことと、深川 SC 人工壁貸し切りと合わせ技にしよう。

研 I ねえ、横ちゃん、ボジョレー・ヌーヴォー空いちやつたんだけど。

研 Y じゃあ、もう一本追加！ペースはええなあ……。ところで決まってないのは何位と何位かな？

本 A 3 位、5 位、6 位、10 位です。

研 I じゃあ、劔岳合宿は 3 位だな。

本 S みんなすごく頑張りました。妥当だと思います。

研 Y よし、あと残るは 3 枠だ。5 位はどうしよう……。大常木谷ってどうだったのかな。

研 I とにかく泳ぎがたくさんあって凄かったね。

本 S 沢でのビバークとか、へつつて落ちたりとかいろいろな経験がよかったと思う。

研 Y じゃあ、5 位で決定。

研 I オレ、どうしても山ス

キー三昧ってのをに入れて欲しいんだけど・・・。

研 Y こだわってますねえ。山スキーのナニがどうってことなのかしら？

研 I いやあ、講習が増えたりして、楽しいなあ。

研 Y わかりました。じゃあ、アイスクライミングとセットで 10

位にしましょう。

本 A 冬山のいろんな楽しみ方が増えてきたってことですよね。

研 Y いよいよ、最後になりました。残すは 6 位ですね。これは、オレの独断で、研究生増加にさせていただきます。

本 S 異議ナン。

本 A 来年はどんな 10 大ニュースになるのかな。

研 I 新研究生の阿出川、斉藤が引っ張ってかない。

研 Y 期待してますよ。では、皆さん、よいお年を。

2004 年

私の 3 大ニュース

本科生、研究生、同人の皆さんに、今年度記憶に残ったベスト 3 を選んでもらいました。

池田 松野 (24 期)

- ① 24 期生として本科に入ることができたこと
- ② 個性豊かな山塾の皆さんに出会えたこと
- ③ T-WALL で横川さんに『足を切る』ことを教わったこと

神森 揮要子 (24 期)

- ① 山塾に入会したこと
- ② 5 月、爺が岳残雪期山行
初めて岩崎さんにお会いできて感激！！
- ③ 7 月、南アルプス、聖、光岳縦走
福島さんと 2 人だった。3 日目にしてやっと天気に！易老渡に着いたとき、登山靴のソールが両足とも剥がれていて啞然とする。

福島 彰男 (24 期)

- ① 劔夏合宿・長次郎雪渓、八ツ峰下半部登攀
本科入学初めての合宿に参加。劔のスケールの大きさに圧倒され、感動が脳裏に。充実した合宿だった。
- ② 小川山でのロッククライミング講習
レギュラーを挑む人を見て驚愕した。自分にとって全くの“別世界”。
- ③ 深川 SC、月曜のクライミング練習会
あっと言う間に終わってしまった。短い期間だったが、ボルダーに嵌る。お蔭で楽しみが増えた。横川さんに、「感謝」、「感謝」。無駄にしたくない。

松永 己幸 (24 期)

- ① 無名山塾に入会したこと
就職してから入会するのが筋と忠告されながらの入会
- ② 地図が読めるようになったこと
地図上で自分がどこにいるのか分かるようになった
- ③ 大常木谷
ステーションビバークはカルチャーショックであった

阿出川 忍 (23 期)

- ① 戸隠自主時間切れでビバーク
無理はしないけど、ちょっと頑張る自主山行おもしろかった～
- ② 甲斐駒でお正月を家族でない人と過ごす
子供の成長を実感
- ③ 白馬でアイゼン額に刺さる
お嫁に行けないかも・・・？

黒田 記代 (23 期)

- ① 梶海新道を親不知海岸へ、日本海に足を浸す。
親不知海岸(日本海)から御前崎(太平洋)まで日本列島縦断コース、半分トレース。
- ② 早月尾根～劔岳～北方稜線～樺平
私にとって、初めての本格的バリエーションルート自主山行。あこがれの北方稜線を行く、岩稜帯テント縦走。

③庚申山から皇海山縦走

山中ツェルト泊(一人)就寝中、動物の息使いがする。不規則な息使い。ちょっと大型。熊? 暗闇でドッキリはいや。一晩中ヘッドンを点灯して寝る。明かりに興味を持って近づくか、逃げるか。ここに人が居るから来るなに賭ける。

斉藤 典子(23期)

①雪のタカマタギ

全員登頂できて感激!

②戸隠山縦走自主

初めての時間切れビバーク。でも仲間として不安ではなかった。

③大常木谷

林道歩きが大変だった。

伊藤 由以(研究生)

①所属山岳会を脱退。無名山塾研究生になる。悩んだなあ...

②北穂高岳でバテル。

体力がた落ちを身をもって知る。24期の熟年パワーに脱帽。

③草野さん負傷。

恐るべし谷川岳。

伊藤 幸雄(研究生)

①カモシカ単独八ガ岳南北縦走。

夜一人歩きの楽しみを知る。

②雪山バリエーション自主スタート。阿弥陀北陵、石尊陵

雪山は綺麗でいいけどビビル。

③トルコで休養。

海外のトルコですよ...、山から離れてちょっと夫婦で休養旅行。

久野 真由美(研究生)

①テレマーク、デビュー

両刀使いをめざします。

②5月の八甲田・高田大岳

頂上からの1枚バーンは爽快!でした。

③沢、岩、遅ればせながら、じわじわ楽しくなってきました!

福田 洋子(研究生)

①元旦に、帰れて良かった東尾根 リベンジいつになるのかな(仙丈ヶ岳東尾根)

②崩壊に加速させたか沢講習、後になるほど手がかり足がかりなし。(滝郷沢にて)

③目からウロコの八の字結び、測ってなっとく流動分散(春)、頭と身体の食違い、やって見なきゃわからん物です(秋)練習しなきゃ。(天覧山・技術委員会自主研修)

山野 美香(研究生)

①月刊「岩小舎」4月よりスタート

編集作業はちょっと大変、でも読むほうがもっと大変?!

②劔合宿

大勢での停滞は楽しかった~!

③立派な入会案内完成!

これで新会員が集まれば...

横川 秀樹(研究生)

①岩崎さんと、山塾の今後に向けて会話

少しでも何か変わって、会員にとっても、入会を検討している人にとっても、もっと魅力的な無名山塾にしたいものです。

②何でもやってみよう作戦展開中!?

入会パンフ、岩小舎編集部発足&創刊、深川 SC 貸し切り、加藤泰平氏の特別講習、技術勉強会...。失敗もあるかもしれないけど何かやってみなきゃ物事は動かない...、だから何でもやってみよう!

③ボルダー&アイスに熱中!

山塾っぽくない遊びでゴメンナサイ。

坂口 理子(同人)

①長谷川カップ出場

絶対出ないと思ってたのに

②竜王東尾根登攀

マイナーな醍醐味満喫

③新岩小舎創刊

表も裏も編集長に脱帽

■ 同人便り ～矢田 実～

【じん帯繁盛記 その4】

「ギッチョン！ガッチョン！！MRI」

8月4日 予約どおり TIS 大学病院 1F に出頭！？MRI 検査室に向かう。程なく呼び出しがかかった。

「こちらの部屋で着替えてください。眼鏡やアクセサリー類、磁気カード、時計・携帯電話などの精密機器は身につけないでください。」おお！検査らしくなってきたぞ。

「特に携帯電話は注意してください。」「はあ・・・携帯ですか？」「今の若い人は携帯電話を離れたがらないんですよ。」携帯依存症にもあきれたもんだ。「検査は全部で45分程度かかります。」

検査台の上に仰向けに寝て、膝を補足具で固定。「コンコンコンという音が聞こえているときは撮影中ですから。絶対に動かないでください。音がうるさいですからヘッドホンを付けます。」おお！さわやかな音楽が流れているではないか。「気分が悪くなったらこのボタンを押してください。それでは始めます。」ウィーンと検査台が円筒状の磁石の中に入って行く。緊張。検査スタート！！

ギッチョン、ガッチョン、ドドドドド、コンコンコンコン、大きな音が連続して周囲から聞こえてくる。動けないのがこんなにも辛いとは思わなかった。ヘッドホンが蒸れて苦し～い。そんなこんなで、盛大な操作音を我慢すること45分、素敵な左膝の輪切り写真が出来上がりました。

検査を終え、待つこと30分ようやく診察。部屋に入ると白衣の大軍団がお出迎え！！「学生さんに診察の様子を見せたいのですが、よろしいですか？」「は～あ、別にかまいませんが・・・」いかにも大学病院らしい。気分はすでにモルモット。

「この白い部分が前十字靭帯の切れた箇所です。ご覧になりますか？」ライトテーブルに陳列される膝の輪切り写真、おお、見事な写りではないか！！「半月板もやはり損傷していますね」あちゃ～！！「内側側副靭帯の方はひど

くありませんから安心してください。自動車事故ではありませんから靭帯が全部切れるようなことはありません！」う～慰めになってない・・・

続いて、いつものラックマン(Lachman)テストの実演販売。「膝15度屈曲位での前方引出しテストと前外側旋回不安定検査です。内外反、後方への動揺性を調べます。」「患者さんはどうしても余計な力が入ってしまいますから、予備動作が肝心です。こうして、こう。」痛て！

さらに、膝関節計測器なる怪しい機械を装着！膝の前方移動量(前十字靭帯が伸びていたり切れている場合は膝から下が前方に移動する量が多くなります。)を計測。覗き込む学生一同「左が13mm、右が5mm、倍以上緩んでますね・・・」にこやかに答える先生。

「今後の治療方針ですがどうされますか？」「手術したいと思います。切れた靭帯をつなぐ手術はいつごろできますか？」「切れた靭帯は残念ながら二度とつなげません・・・再建します。」「え？え！つながないんですか・・・？？」次回ドンと「再建手術とは？編」に続く

じん帯繁盛記うんちく2

MRI

磁気共鳴断層画像診断装置(Magnetic Resonance Imaging)の略。強い磁石と電波によって人体の断層像を撮影します。

患者はベッドに仰向けに寝た状態で磁石の埋め込まれた大きなトンネルの中に入り、FMラジオに用いられる電波を身体に当てることによって、体の中から放出される信号を受け取りコンピューターで計算、体内の様子を画像として表します。また、いろいろな方向からの体の断面の写真を撮影することが出来ます。

MRIの特徴

- ・X線写真やCTと違い放射線による「被ばく」がない。
- ・体中のあらゆる方向の画像が得られる。
- ・検査中に大きな音がする。
- ・痛みはまったくありません。

■こちら技術委員会～講師/金沢和則～

<仮想レスキュー>

このところ忙しかったけれど、あしたの休日は時間が空いた。そこで近くの岩場ゲレンデにいかがかなと考え M を誘った、そんな週末。

携帯の着信記録と留守電メモに気が付く。
[きょう下山予定の S 山、日帰り予定でしたが、時間切れ P 峠でビバークします]

どれどれと計画書を見直してみる。11月初冬にもあたる S 山、歩きの自主山行だ。少し雪はあるようだが声は元気そうだったし、緊急の様子もない。出発前にアドバイスしておいたし、ビバークの準備はしているし、大丈夫やろ(笑)

翌日の朝。ゲレンデに行くなら携帯が入るところにしようか。それなら何かあっても大丈夫…と思いつつ、コースやその日の状況考えて、昼過ぎまで連絡ないなら少しは対応策も意識しておかないとな…(在京本部じゃないか、リスクマネジメントという意味でも)…次の日はどうも天候が悪くなりそうだし…

「そうだ京都に行こう！」

じゃない、少しでも現地に近いところに進もうか。後からゲレンデでなんかで遊んでいてなんて言われぬように。結果的には何事もなく、そんな行動が笑い話で終わってもいいじゃない。そのほうが本当はいいんだし(笑)。

ところで何ゆえに行くかって！？

山での事故。

実際、岩場ルートでなにかある場合って、たいていはすでに結果が出ている。軽傷とか重症とかすでに…と、ある意味、できることも決まってくるし、ポイントも探しやすい。それに対して、縦走など歩く計画では場所の特定や、また特定できていたとしても、パーティ全員が同じ時間軸での環境にいるので、時間が経過すればするほど全体の消耗がひどくなり、全員に影響がでてくる可能性もある。今回はその後に天候の悪化の要素もあるので、対応は早いほうがいいと考えられる。居ながらにしても得られる情報は

あるが、よりリアルな現地の状況や情報は、はやく多く得られたほうがいい。昼過ぎから動いては到着は夕方になってしまうところにある S 山。実質 1 日無駄になる。

もつともこの段階では、全員召集なんてことは考えてないし、いたずらに連絡をする段階ではない。仮になにかトラブルがあり、連絡が夕刻になってもとれない場合にはじめて、規定での下山予定の日を越えるので動きだすことになる。

でもな…そうなる前の先遣隊。とは大袈裟だけど、情報の収集ができていれば対応も的確にできるし、先遣隊だけで対応できてしまうかもしれない。また公的機関(警察その他)への対応も手早くできるだろう、これ結構重要などころとなると思う。これだけの動きができるなんて山塾の危機管理も結構いけてるじゃないか(自画自賛！?)。理由はそんなところか。もつとも、自分に多少時間の融通がつけられる状況であることが大きいのかも(笑)。

理屈はともかく、途中で無駄になってもそれはそれで面白い旅になるかも。途中で帰ることになったら…そこから近い山に遊びにいけばいいのさ。

さっそく雪山対応もできる装備を取りに戻り、いざ出発。車で高速を西に飛ばす。秋の風景から初冬を思わせる空気感に沈む山並が連なりはじめる…

[無事下山できました。元気です]そんな携帯が入ってきた。ホッ。

[ともかく元気でよかったね。お疲れさま]

ところでどうする？この後。ここから帰る途中の Z 峠まで登ろうか時間あるし…

「どうしたの、携帯鳴ってるよ、それにゲレンデだからってちゃんとビレイしてよ、ロープ弛んでるよ」と M。

「あ、ごめんボーツとして」

「もしもし、あ、無事下山。了解。ともかく元気でよかったね。お疲れさま」

■□■□ 編集室だより ■□■□

今年の冬は暖かいですね。富士山の雪訓が心配です。正月山行も、雪が少なくヤブ漕ぎ～なんてことにならなければいいけれど。やっぱり冬は冬らしいのがいいですよ。

毎年、この時期になると、そろそろやらなければ、と気にかかってくるのが、年賀状。そして、同時に私の頭にはあれやこれやと山の名前が浮かんで消え、浮かんで消え……。なぜかって？それは、ここ最近、我が家の年賀状は、その年の干支が載っている 1/25000 の地形図をアレンジして使っているからなのです。

最初にやったウマ年は、白『馬』岳。次のヒツジ年は、『羊』蹄山。今年のカル年は、『猿』ヶ京温泉にしました。毎年、何にしようか考えるのがなかなか楽しみなのですが、さて、来年はトリ年。さて、どうしよう？トリかあ……トリ、ねえ……。

一番、メジャーなところは、『鳥』海山かなあ。でも、まあよ。ウマ(午)やヒツジ(未)が、『馬』や『羊』になるのはまだいいとしても、トリ(酉)が『鳥』になるのは、ちょっとバカっぽいかなあ。いかにもアタマ悪そうだね。「鳥じゃなくて酉だつて言うんでしょ？いや、わかってやってるんですよ」みたいなことを一枚一枚書き添えるのも面倒くさいし……本当は知らなくて印刷しちゃったのと言い訳してるみたいだし。かと言って、『酉』がつくのは、難しいぞ。ちょっと無さそうだなあ。一步、妥協して、『鶏』にするか。じゃあ、そうねえ、『鶏』冠尾根(トサカオネ)なんて、どう？……マイナーすぎるか。南アルプス深南部にも『鶏』冠山(トサカヤマ)があるけど……さらにマイナーか？あとは、東北に『鶏』頭山(ケイトウサン)なんてあるけど、年の始めからトリアタマなんて、物忘れが激しくなりそうだなあ。やめとこ…。

と、ここまで書いてきてふと気付いたのですが、私もダンナも毎年だいたい年末から正月にかけては山に行っているの、山関係の方々には、下山時に「じゃ、また来年もヨロシク！」か、もしくは「明けましておめでとう、今年もヨロシク！」と、ひととおり挨拶を済ませちゃっているんですよ。ということは、1/25000 地形図年賀状は、そのほとんどが、山を知らない一般の方々には送られているワケで。たぶん、それが 1/25000 の地形図だとはいくらもわからずに、「なんじゃこりゃ」的受け取り方をされているのかも。しかも毎年……。

でも、めげずに今年もやります 1/25000 地形図年賀状！……というわけで、目下、『トリ』のつ

く山、大募集中です！採用されたアナタには、もれなく年賀状をお送り致します(但し、お年玉クジはついておりません。あしからず)。(R子)

～*～*～* 12月の一言集 ～*～*～*

◆救助訓練は大変勉強になりました。(松永)

◆出張の飛行機の中から白く雪化粧した富士山が見えた。きれいだが……雪が少ない。雪訓前に雪よ降れ！！(矢田)

◆12月から会員になりました。カリキュラム表にある怖そうなルート名にビビリ、机上講習や会報で皆さんの情熱に押され身震い。新人ならではの特権？？どうぞご教授のほどを！(尾久)

◆近頃クライミングジムへ行って帰りが遅くなる。さらに12月は忘年会でついつい帰りが遅くなる。最近晩ご飯作ってないなあ。うちの旦那様、ナニ食べてあんなに肥えているのかしら？(mika)

◆今年も良い山行がいっぱいできた。山塾に感謝！感謝！の年だった。(YUI)

◆鍋がおいしい季節になってきました。今、鍋研究委員会の会長・会員として毎晩研究を重ねています。今日はたらしちでした！(ぶひよ)

◆今年の冬はどうなんでしょう。雪や氷。ま、ともかく忙しいんだけど、少し巻きなおそうかな技術委員会。チョー気持ちいいっていえるように？！(kanazawa)

◆11月、「岩」の月でした。救助訓練、いろいろトライできて密度は濃かった・良かったと思えます。懸垂の「背上」のHさん、さぞ怖かったでしょう～。(久野)

◆ホンチャンでの“ツェルトビバーク”初体験。フォーカスト・ビバーク(計画的露営)だったのか、フォースト・ビバーク(不時露営)だったのか？(kuroda)

◆ふと岩小舎創刊号('85年報)を開くと、半分以上が山スキーの記録だった。一ノ倉4ルンゼの記録や、白馬乗鞍で骨折し自力下山した貴重な報告がある。今シーズンも滑りまくろう！(工藤)

◆岩登り、何度も練習してこそ身につくにつづく痛感。もっと登りこみしなければ……。 (福島)

◆10大ニュースいかがでしたか。4人でまとめたんですが、一年間のいろいろなことを思い出しました。来年も、楽しく、そしてピリリと緊張感のある山へチャレンジです。(横川)

■11月の山行一覧

	種類	場所	日程	メンバー	記録
1	自主	天王岩 RCT	11/3	横川(L), 工藤, 田口, 山野昭, 山野美	横川
2	技委	天覧山/救助訓練勉強会	11/6	金沢, 坂口, 渡部, 横川, 伊藤幸, 田口, 福田, 山野昭, 久野, 山野美	山野昭
3	講習	天覧山/救助訓練	11/7	金沢, 松本, 坂口, 沢口, 渡部, 伊藤幸, 横川, 田口, 山野昭, 福田, 久野, 山野美, 伊藤栄, 黒田, 浅村, 田中, 福島, 松永, 池田	福島
4	自主	日和田 RCT	11/10	福島(L), 池田, 松永, 伊藤由	池田
5	講習	日和田②	11/13	宮下, 横川, 福島, 松永, 神森, 遠足 5名	神森
6	自主	奥多摩日原川/ 倉沢谷・塩地谷	11/13	福田(L), 渡部, 南谷	福田
7	自主	戸隠山縦走	11/13- 14	阿出川(L), 黒田, 斉藤, 伊藤栄	阿出川
8	自主	伊豆・城山 RCT	11/20	横川(L), 工藤, 伊藤幸, 伊藤栄, 久野	横川
9	講習	岳嶺岩/A1クライミング	11/21	小林, 向原, 松本, 久野, 小林幸, 福島, 松永, 神森, 池田	松永
10	講習	藤坂ロックガーデン	11/23	金沢, 伊藤幸, 横川, 山野昭, 山野美, 阿出川, 斉藤, 小林幸, 黒田, 田中, 福島, 神森, 池田, 松永, 遠足 1名	田中
11	自主	日和田 RCT	11/27	福島(L), 池田, 松永	松永

月刊 岩小舎 1月号の予定

(2005年1月15日発行)

【掲載予定】

□講習山行

水無川本谷下部/アイゼントレーニング
 塔ノ岳大倉尾根/ボッカ訓練
 富士山6合目/雪上訓練
 神楽スキー場周辺/山スキー

□自主山行

塔ノ岳大倉尾根/ボッカ訓練
 八ヶ岳/裏同心ルンゼ
 八ヶ岳/赤岳主稜
 富士山
 倉岳山/ルートファインディング

☆原稿は1月5日締め切りです。

発行 無名山塾(埼玉県山岳連盟所属)

住所 東京都豊島区南大塚 1-39-2-1F

電話 03-3941-3481

FAX 03-3941-3482

HP <http://www.sanjc.com/>

編集長 山野美香

編集部 坂口理子

福田洋子

横川秀樹

□机上講座の予定

(於:豊島区立勤労福祉会館 19:00~)

1月27日(木) 雪山入門-4「ラッセルと雪洞」

2月24日(木) 雪山入門-5「雪山サバイバルと

セルフレスキュー」

3月24日(木) 岩登り入門